

家庭訪問4箇条 「おしゃもじ」**お** みやげをもっていきましょう。

なにも、菓子折をもって行こうというではありません。
ご家庭を訪問する前には、必ずその家の子どもの良いところを、3つは具体的なエピソードを交えて話せるようにしておきましょう。

しゃ べりすぎないようにしましょう。

あくまで、保護者の方のお話を聞きに行くのであって、教師の主張をしにいくのではないのです。そこが懇談会と違うところです。
また、話してはいけない「5悪口」

子どもの悪口 他の子どもの悪口 他の家庭の悪口 他の教師の悪口
学校運営に関する悪口

残念なことです、このような話題を向こうからされることもあります。その際も同調したり、意見を述べたりもせず、「そうなんですか」と只きけばいいのです。

また、担任教師に対する苦言もあります。

その際も、よほどのことがないかぎり反論してはいけません。

「ご指摘ありがとうございます」と言うのです。クレームがあったらチャンスと思え、です。

も ち帰りましょう。

自分では判断できないこと、複雑な問題である場合は、格好つけずに次のように言いましょう。

とても大切な問題なので、学校に持ち帰ってみんなで相談してから、改めてご報告いたします。

その場で答えられないことは、まったく恥ずかしいことではありません。

むしろ、分からないことを「分からない」と言えることは、責任ある態度なのです。

じ かんをまもりましょう。

他人の気持ちや状況を考えるとというのは、教師として基本のきです。

こんな方がいるかも知れません。

- ・パートの合間を縫って家庭訪問を受けられている。
- ・お仕事を休んだ。
- ・貴重な休みの日である。
- ・次の用事が入っている。

一日にたくさんの親御さんと話をするのは、決して楽なことではありません。でも、親御さんのお話に耳を傾けられる余裕を忘れないようにお互い頑張りましょう。